

MSI通信

Vol.195

●米国で「ねじれ議会」の誕生

米国の中間選挙が終わり、大方の予想通り上院は共和党、下院では民主党が過半数を占めたことで、いわゆる「ねじれ議会」の誕生となりました。米国では、上院が外交・通商問題を扱い、閣僚や連邦最高裁判事など大統領による指名人事を承認する権限を持っています。

一方、下院は予算や法案の成否にかかわるだけに、来年以降の新議会の下で法案は、民主党の意向を無視しては通り難くなります。また、新議会では多数派が議長職に就くことから、下院議員のトップである院内総務の職にあるナンシー・ペロシ議員が議長に就くと見られます。

また個別の委員長ポストも民主党議員が占めることとなります。11月14日の米国株式市場では金融株が下げを主導しましたが、新議会の下院金融委員長への就任が見込まれている民主党のウォーターズ議員が、金融業界の規制強化を求める考えを明確にしたのが嫌気されたと伝えられました。トランプ政権下において、新たに金融規制担当に座った連邦準備理事会(FRB)・クォールズ副議長の下で、FRBが銀行の自己資本・流動性基準の緩和に向けた取り組みを行っていることに懸念を示し、FRB大手行を厳しく監督すべきとしたことが材料視され、株価が下げたとされます。

このように、議会勢力が変わったことで、トランプ政権は政策上のフリーハンドを失い、これまでのようには思い通りに政策を遂行できなくなりそうです。

いわば議会が、チェック&バランスの機能を取り戻すことで、2年近くにわたり続いて来たトランプ大統

国際政治の流動化と影響を受ける金融市場

領による独断専行的な政策運営が修正を余儀なくされることになりそうです。

そもそも共和党議会指導部が、共和党支持者の間でトランプ大統領の支持率が8割超にまで上昇したことで、大統領に対し辛口の意見を具申しなくなり、独断専行を放任することになりました。今回の米議会選挙を屈折点として、米国政治の流れもさらに変わることになりそうです。

2020年の大統領選挙に向け、すでに動き出しているトランプ大統領ですが、コアの支持層受けのする、よりセンセーショナルな外交攻勢に打って出て、対外摩擦とりわけ中国との関係悪化が懸念されます。両国の対立の先鋭化は世界経済への影響が大きく、すでに株式市場のセンチメントの悪化として表れています。

●不安定化の端緒としての2016年

いま世界を見渡すと国際政治が大きく動き出しているのがわかります。欧州ではドイツのメルケル首相が、10月末に与党キリスト教民主同盟(CDU)の党首を辞任すると表明し、世界中が驚きました。

同首相は、いわば「欧州の顔」として強いリーダーシップを発揮し、欧州連合(EU)の拡大を進めてきたことで知られます。10月に実施された二つの州議会選挙で歴史的な大敗を喫し、党人事の刷新が不可欠と判断したとされ、12月の党首選挙への立候補を断念すると伝えられました。

欧州の盟主として移民の受け入れを積極的に進めた結果、国内での反発を高め、難民排斥を掲げる新興右翼政党「ドイツのための選択肢(AfD)」の台頭を招きました。首相職には2021年の任期までとどまる意向とされますが、レイムダック化(指導力・求心力の低下)の可能性は否定できません。

先月の当レポート(第747号)に

て、「Brexit(ブリグジット)、決められない政治の先にある危機」として英国のEU離脱をめぐる混乱について取り上げました。

離脱の賛否を英国議会でまとめ切れなかった当時のキャメロン首相が、判断を国民投票に委ねたのがそもその始まりでした。それが事前予想に反し離脱が決まり、英ポンドの急落や株式市場の乱高下など波乱を招くこととなります。さらに、その後の米国大統領選挙の結果も、大方の予想に反するサプライズとなりました。いずれも2016年のことで、この年を起点に国際政治の流動化が始まっています。

●発端としてのリーマンショック

思うにこの流動化に至る節目として2008年のリーマンショックがあると捉えています。2008年までの金融の時代の中で、既に広がっていた貧富の格差が、金融危機後の経済修復のためにばら撒かれた中銀マネーによって、さらに広がった現実があります。あふれるマネーがもたらす資産価格の上昇につながり、デフレの深化を恐れたFRBをはじめ主要中央銀行は、そうした環境も必要悪として容認したのです。その結果、米国株に象徴されますが、株価は過去最高値の更新を続けました。

一方、賃金上昇など個人の生活環境の回復は遅れました。つまりリーマンショック前にすでに問題視されていた貧富の格差がさらに広がることになりました。

これまでの政治に対する疑問・不満が既存の体制を揺るがし始めた端緒としての「Brexit」であり、トランプ政権の誕生であり、欧州各国で目立つ中道から右傾化という政治の流動化は、来年以降も勢いを増し、金融市場にも影響を及ぼす要因になりそうです。

(クルー 亀井幸一郎)